

不安除いて更生促す



保護観察対象者の更生について語る県保護司
会連合会の天内修会長＝青森市長島1丁目

性犯罪を含めて過去に様々な非行を犯した人たちの更生を支える保護司でつくる県保護司会連合会の天内修会長(59)は話す。

保護観察処分などが決まつた成人・少年を定期的に

■ ■
保護観察所による性犯罪

い言葉をかけることもあら。信頼関係を築いて本音を引き出し、生活環境など身近な不安を取り除いてあげることが更生を前進させる」

性犯罪を含めて過去に様々な非行を犯した人たちの更生を支える保護司でつくる県保護司会連合会の天内修会長(59)は話す。

■ ■
保護観察所による性犯罪



4

(13日現在)いる保護司が「無駄話もするし、厳しい言葉をかけることもある。信頼関係を築いて本音を引き出し、生活環境などを身近な不安を取り除いてあげることが更生を前進させる」

性犯罪を含めて過去に様々な非行を犯した人たちの更生を支える保護司でつくる県保護司会連合会の天内修会長(59)は話す。

■ ■
保護観察所による性犯罪

再犯抑止へ長期の取り組み

法務省は昨年12月、こんな分析結果を公表した。プログラムは法務省が06年から全国の保護観察所と一部の刑務所に導入した。保護観察所では強姦などの性犯罪者や下着泥棒など性的欲求に基づく犯罪を犯した人たちが、保護観察官や保護司による指導を受け

者遭遇プログラム=○=の受講者は非受講者より性犯罪の推定再犯率が低下する

●
保護観察所による性犯罪者遭遇プログラム
面接やグループワークで感情や行動を分析・図式化し、思い込みなどのゆがみに気づき、性犯罪を犯す過程を理解する。

指導の動機付けを図る「導入プログラム」から始まり、性犯罪を犯す心理状態や被害者が受けける苦痛を学ぶ「コア・プログラム」は2週間ごとに全5回。保護司らによる生活実態の把握も同時進行させ、対象者の家族を指導する「家族プログラム」も行う。

04年に奈良県で起きた女児誘拐殺害事件が導入の契機になった。

法務省の推計では、受講した仮釈放者は性犯罪の再犯率が21・6%から15・5%に低下。保護観察付き執行猶予者では33・3%から17・9%になるとされた。

全国の保護観察所では850人が11年にプログラムの受講を開始。青森保護観察所では11人だった。鈴木道行所長は「認知のゆがみに気付かせ、一人ひとりの受講を開始。

性犯罪者のカウンセリングを行うNPO・性犯罪加害者の処遇制度を考える会(東京)の代表理事で精神科医の福井裕輝医師は「ゆがんだ認知を治すには長期間を要する。保護観察終了とともにプログラムの受講も終わってしまうのでは再犯の抑止効果は薄い」と指摘。「出所後など実生活を送りながらでも専門家の治療を継続的に受けられる環境整備が必要だ」と訴え

課題も見つかった。参加意欲がなかったり拒否したりする受講者から、更生意欲をいかに引き出すかだ。青森地裁で3月に開かれた強姦致傷事件の裁判員裁判では、被告の男(37)が性犯罪の前科事件の服役時や仮釈放中の保護観察下に受けたプログラムで積極的な受講態度を見せせず、自身の抱える問題点を見つめ直す機会を生かせなかつたことが判決で指摘された。

性犯罪者のカウンセリングを行うNPO・性犯罪加害者の処遇制度を考える会(東京)の代表理事で精神科医の福井裕輝医師は「ゆがんだ認知を治すには長期間を要する。保護観察終了とともにプログラムの受講も終わってしまうのでは再犯の抑止効果は薄い」と指摘。「出所後など実生活を送りながらでも専門家の治療を継続的に受けられる環境整備が必要だ」と訴え